

2年連続広報日本一 広報きたもとが内閣総理大臣賞受賞 市民の皆さんが作る「第3の居場所」特集が評価



広報きたもと令和4年9月号が、全国広報コンクール（日本広報協会主催、都道府県審査を通過した自治体作品448点を審査）の最高賞・内閣総理大臣賞を受賞しました。市は昨年の同コンクールで、まちへの愛着向上を目的とした屋外の仮設マーケット事業で内閣総理大臣賞を受賞しており、2年連続で自治体広報日本一に輝きました。

広報きたもとは、令和3年5月号から紙面の内製化を開始し、企画・取材・デザイン等を職員が一貫して行っています。低コストで市民の皆さんの想いをダイレクトに伝える紙面づくりを続け、日々、多くの方々に取材等のご協力をいただいています。今後もわかりやすく、まちの魅力が伝わる紙面を目指していきます。

〇市長公室シティプロモーション・広報担当（☎594-5505）

広報きたもと令和4年9月号

審査員講評
特集のテーマを「居場所」とした発想がおもしろい。人間にとって第一の生活空間が「家庭」、第二が学校や職場、そして第三が「地域」と言われる。この第三の生活空間がより豊かなことが充実した人生につながる。それを今「居場所」と呼ぶ。「居場所」は市民すべてに共通するテーマであり、さらに、特に問題を抱える人には重要な課題だ。

市民のシンボリックな市役所芝生広場の居場所のほか、団地の中庭や古民家を活用したさまざまな居場所を楽しく豊かに紹介している。その居場所と人間とのかわりを連鎖させる構成がうまい。ほかの地域でも参考にしなくなる「居場所づくり」の実例が、地域住民のリアルな言葉とともに、分かりやすく編集されている。

また、雰囲気伝える写真中心のレイアウトと、しっかり文章で届けるレイアウトのメリハリが感じられる。老若男女の笑顔が引き出された写真と、トレンドを意識したデザインから、まちの明るいキャラクターが伝わってくる。また、見出しを追うだけで概要を把握でき、かつ興味をひかれる言葉の切り取り方も秀逸。十分な取材がされていて、担当者の企画に対する強い意欲や愛着が感じられる点もすばらしい。他に抜きん出た秀逸な作品である。

9月号は市ホームページから
ご覧になれます▶

内容の詳細や在庫等についてはお問い合わせください。



受賞を伝える
記者発表を
開催
新聞3紙とテレビで
報道されました

紙面に登場した皆さんのコメント



柳井 則子さん

取材内容を聞いた時は驚きましたが、熱いインタビューを受ける中で同じ子育て世代の方が私のように地域の温かさに支えられながら子育てを楽しむ、誰かの一歩踏み出すきっかけになればいいなと思いました。
記事を読んで色々と感じをいただき、元気もらった、素敵な活動だと思った、感動したとマーケットに会いにまで来てくださった方もいて嬉しかったです。
私は今、& greenのご縁からの繋がりで、さらにこのまちの暮らしを楽しんでいます。



&green market などを通じて、
地域にお子さんと一緒に
安心できる居場所ができた体験談

この紙面には、写真を撮る側と撮られる側の関係性が表れているなどと思います。プライベートで遊びに来たような雰囲気撮影されているので、みんな自然体な写真になっているんじゃないでしょうか。私自身は北本に引っ越してきて6年半ですが、市内に顔の見える関係の人たちがたくさんできて本当に楽しい日々を過ごしています。こうして楽しむことが自分の住んでいるまちを元気にすると思いますね。

西村 一孝さん



去年、「&green market」「マーケットの学校」が内閣総理大臣賞を受賞した際の記者発表に参加しましたが、今年もこういう形で記者発表に来ることができました！この9月号では、「マーケットの学校」のアーカイブ動画から言葉を紡いでもらい、1時間ほどの取材でいろいろな話をさせてもらいました。言葉も写真も想いがこもっていて、完成したときはとても嬉しかったです。個人的に編集後記も好きです！

南波 美帆さん



市役所で定期開催する
&green market に関わる皆さんのお話



今井 邦夫さん

かがやきサロン（荒井3-79、火・木曜日10:00～15:00）
安藤 富貴江さん・甲斐田 よし子さん



B.Jバスケッ（中丸2-29、火・金曜日、10:00～15:00）
横塚 純子さん・野桑 由美子さん



太田 久美子さん・鈴木 節子さん・鈴木 貴紀さん



居場所づくりをそれぞれの方法で
応援するお二人のインタビュー



和久津 早苗さん

「これは賞を取るのでは」と思っていたので、結果を聞いて非常に嬉しかったです。しかし、この表紙には驚きました（笑）。横の表紙の広報紙は初めて見ましたが、背景の緑がまさにシティプロモーションコンセプト「& green」だなと。私は「マーケットの学校」「& green market」に参加して、現在は「きたもとクラフトマーケット」もやらせてもらっています。個人では場所を借りるのも難しかったのが、皆さんに動いてもらって実現できています。今後もよろしくをお願いします！

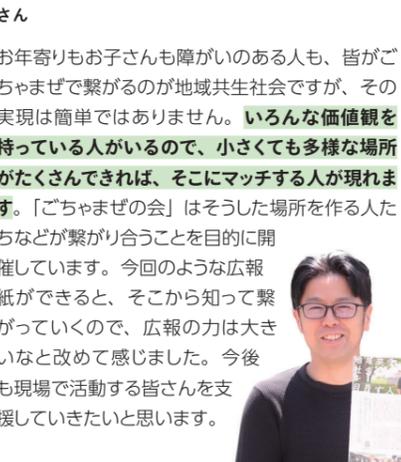
市内に生まれる
様々な「第3の居場所」



私たち「育児サポーター「くりりん」」が行う子ども食堂「くりりんCAFE」は、人に「与える」のではなく、自然に人と人が繋がって、だんだん広がり輪になっていく、そんな思いでやっています。広報きたもとは、そんな私たちの気持ちも汲んで、記事にまとめてもらいました。この紙面をたくさんの人に見せたら「すごく素敵だね」「北本市って本当にいいところだね」と言われました。長く住んでいると北本の魅力ってあまり意識しなくなるんですけど、取材を受ける中で改めて北本が好きになりました。

小澤 理絵さん **くりりんCAFE**「北本団地「中庭」」で定期開催

「B.Jバスケッ」は、男も女も、障がいを持っているメンバーもいます。包丁研ぎやマッサージ、野菜の販売など好きなこと、得意なことを持ち寄り、お年寄りも若い人も、赤ちゃんにも来てもらえるような場所を作っています。この広報きたもとは「自慢の種」です。「広報を見て来たよ」というお客さんが本当にいらっしゃいました。この場所を作るまでに様々なご協力をいただいたので、次は私たちがやりたいことのある人に力をお貸ししたいと思います。



大塚 竜自さん

広報紙って、そのまちの情報を扱う小さいメディアだからこそ、お互いの顔が見えてコミュニケーションのツールとして機能するんだと思います。冊子を作るのがゴールなのではなく、取材をする・されることでつながっていくことに価値があるんだろうなと思います。僕らは、シェアキッチン「ケルン」や「&green market」のように、「場所」や「機会」で人のつながりを作っているんですけど、住んでるまちの広報紙でコミュニケーションが生まれているのは、市民として嬉しいなと思いますね。

江澤 勇介さん